校長室だより

令和６年度
１２月１６日
ＮＯ．３８

ことばをつむぐ、ことばでつむぐ　心をつむぐ　読み聞かせ。

「読み聞かせとは、ともに読んで楽しむこと、言葉の種まきだ、と思います。物語のワンシーン。言葉の積み重ねが、子供たちが成長していく中で豊かに生きるひとつの軸になってくれたらいいなと願いながら、学校読み聞かせに参加しています」ＰＴＡおかざき十二月号には、読み聞かせグループ「さえずり」の山岡さんの言葉が載っています。十二月の読み聞かせで、山岡さんが五・六年生に読み聞かせしてくれたのは、先日亡くなられた谷川俊太郎さんの本でした。

読み聞かせをしてもらった谷川さんの「生きる」の詩は、合唱曲にもなっている詩ですが、「生きているということ／いま生きているということ」のリフレインが印象的で、くしゃみをしたり、泣いたり笑ったり怒ったり…そうした当たり前の日常の大切さを、私たちの心に届けてくれます。

先日も昼の放送で、学習環境委員の子が、谷川俊太郎さんの「ともだち」の詩を紹介してくれました。友達とは何か、こうして放送で、「ことば」で聞くと、「友達の大切さ」が改めて私たちに伝わります。他にも、昼の放送で毎日流れる、先生へのインタビューや六年生企画など、様々な企画が聞く人を楽しませてくれます。そして担当の子の個性や思い、伝えたいことが、「ことば」を通して伝わってきます。

学校の人権週間でも、先生たちは、「読み聞かせ」をして、いじめ防止や多様性のこと、人権について授業をしました。スクールカウンセラーの徳永先生と話をしていても、人は様々な感情をポジティブやネガティブな言葉で表しますが、それが大事なことであると感じます。私たちは、そうした「生きることば」を大切にしていくことが、子供たちの心を知り、豊かに耕していくことにつながるのだと考えます。

○12/11**「さえずり」さんの読み聞かせがありました**　「きらきら」「これはすいへいせん」「じぶんだけのいろ」「生きる」（以上４冊　谷川俊太郎）、「うばすて山」（谷崎京子）、「こどもかいぎ」（北村裕花）、「おだんごとん」（ｶﾞﾀﾛｰ☆ﾏﾝ）、「ひめさま、ぞうはすごくおおきいでござる」（丸山誠司）、「もしもねずみをえいがにつれていくと」（ﾛｰﾗ・ｼﾞｮﾌｨ・ﾆｭｰﾒﾛﾌ）、「あらまっ！」（ｹｲﾄ・ﾗﾑ）、「むかしむかしとらとねこは」（大島英太郎）、「かさじぞう」（松谷みよこ）、「はーく しょい」（せなけいこ）、「みならい サンタ」（そのだえり）、「どうしてパパとけっこんしたの？」（桃戸栗子）